



桜が満開の4月4日(土)、旧納所小学校校舎が、地域交流センター「くつろぎ」としてオープンしました。

開所式では、横尾市長が「この日を迎えることができ地域のみなさんと関係者に感謝します。多くの人に使っていただくことが何よりも大切。いろいろなアイディア、テーマを作りながら、いろいろな出会いがあることを願います」とあいさつ。横尾市長、山本市議会議長、中川教育長、田淵厚納所大字会会長、奥治特定非営利活動法人ワーカーズコープ九州沖縄事業本部長がテープカットを行いました。

跡地利用は、廃校が決まった平成21年度から検討がはじまり、平成24年度からNPO法人ワーカーズコープからの提案を受け、納所小学校校舎の活用を地域のみなさんと市が検討を行い、地域課題解決の場、地域の憩いの場として活用しようと決定。平成26年度に、これからの用途に応じた校舎の改修や整備を行ってきました。

田淵納所大字会会長は「オープンで「ほっ」としています。これからが大変だと思いますが、地域のみなさんとがんばります」と抱負を述べました。



ミニショップ「わの郷」にはビワノミサイダーをはじめ、珍しい品物もあります

地域課題の解決と憩いの空間がオープン！

「納所交流センター「くつろぎ」開所式」

副島五郎さんと英子さん



創業が昭和28年10月と昨年市制60周年を迎えた多久市より古い歴史を持つ青柳菓子舗(筋原)が、今年の3月で閉店しました。

これまでに多久のお土産品「丹郎の四季」、「孔子まん」、「聖廟あんず最中」など、数々の生菓子、焼き菓子、羊羹などを製造販売してきた青柳菓子舗。店主の副島五郎さん・英子さん夫妻が一代で築き上げましたが、後継者がおらず、高齢により体力的にきつくなってきたことで閉店を決意したとのことでした。

嬉野市出身の副島さん。終戦後の物資の無い時代に、東京で水飴などを扱う問屋で働き、その後取引先でもあった「青柳菓子舗」で修行したのが菓子職人としてのスタートでした。

お金も無くオープンなど設備も無かったので「のんき飴」の製造販売からはじめました。「お菓子は時代や土地で売れ筋も違うので、何でも作ってきました」と副島さん。「一時期は全財産が300円になったこともあった(笑) 食わんばいかんけん続けてきたけど、体力的にきつくなったけん閉店します(笑)」とこれまでの思い出を語られました。

筋原の製菓店、青柳菓子舗が閉店・・・。

青柳菓子舗、62年の歴史に幕

4/11~12 Sat.Sun.

カンアオイで古代のロマンに触れる



不老不死の仙草との伝説があるカンアオイの展示会が多久市物産館『朋来庵』で行われました。今回の展示会は、佐賀県カンアオイ保存会が主催し、基本種の保護と栽培の普及を目的に行われました。

佐賀県カンアオイ保存会は今年9月で、発足して20年目になり、今回が19回目の展示会となりました。

カンアオイの花は茎の下の方にひっそりと咲いており、存在をあまり主張していませんが、その奥ゆかしさに惹かれ、カンアオイを集める人も多いようです。

4/4 Sat.

交通安全を願い 黄色いワッペン



▲交通安全ワッペンを着けてもらった3人の園児

市内園児の交通安全を願って黄色いワッペンの贈呈式が4月4日、市内の園を代表し、西多久町の「認定こども園さくらんぼ」で行われました。

雄一小城警察署多久幹部派出所長が「関係部局が集まって多久市交通対策協議会を組織し、みなさんを見守っています」とあいさつ。

小城警察署職員、多久地区交通安全協会役員が年長児代表3人の右肩に交通事故の防止を願ってワッペンを着けました。

交通安全ワッペンは、市内全幼保育園の2歳児以上約700人に贈呈されました。